

人と住まい

～体験を通して学ぶ子どもの成長と高齢期の住まいの工夫～

藤女子中学高等学校

実施学年：高校3年生
 生徒数：27人（1学級）
 実施教科：選択家庭科
 実施時間数：16時間（補講を含む）



学習のねらい

少子高齢社会と住生活基本法の理念を理解し、自らのライフサイクルにどのような影響があるのかを見つめまた家族を思い住生活の充実・向上に向け主体的にかかわる態度を養う）

学習活動

1. 社会の変化と住まいについて絵本や資料を通して理解する。
2. 幼少時の空間にまつわる記憶を辿り乳幼児の発達を支える住空間の役割を知る。
3. 家庭内事故の事例から住まいに潜む危険について知る。
4. 幼稚園、高齢者賃貸マンション、デイサービスセンターを見学し、自立を促す住空間の工夫、安全性、快適性の確保の仕方について学ぶ。
5. 車椅子に試乗し校内のバリアを体感しバリアフリーを考える。
6. ユニバーサルデザインについて「介護の基礎基本」DVDを視聴する。
7. 自立を促すトイレの設計
 - ・排泄にかかわる動作を書き出す。
 - ・設計のポイントを考える。
 - ・略平面図、簡単なイラストであらわす。

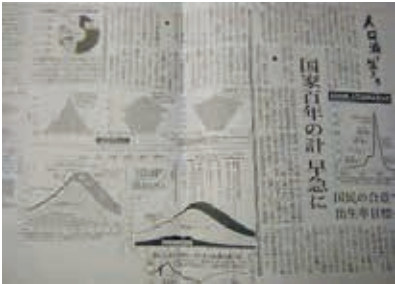




準備品

避難所用ダンボールベッド・子ども用ダンボールハウス、机、椅子・農業用不織布、テープ、両面テープ・色紙・色画用紙・貼ればね・書籍「豊かな住生活を考える－住居学」「これからの住生活」「人にやさしいユニバーサルデザイン」「北海道発 only one の家づくり」「建築技術2007」絵本（3、学習の流れ参照）・木片カプラ

実施場所

普通教室、ホール、幼稚園、高齢者賃貸マンション、デイサービスセンター

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>教室</p> <p>2 時間</p>	<p>●社会の変化と住まい</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本「小さいうち」「バーバパパの家さがし」の読み聞かせを通して住まいのあり方が社会の変化と深く関わっていることを知る。 日本の人口構成の変化（少子高齢化）と住生活の変化が身近であることを知る。 <p>資料：日経朝刊 2005.12.28</p>		<ul style="list-style-type: none"> 都市化と住まいについてわかりやすく描かれ家族の歴史を慈しむ思いが伝わってくる。 バーバパパ家が引っ越し先の家を守る為戦っているところが面白い。 年をとるほど自分を含め周りにも高齢者が増え、「自分がすべきことは何なのか」考えさせられる。
<p>教室</p> <p>1 時間</p>	<p>●人と住まい</p> <p>～空間認識のはじまり～</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵本「マーシャとくま」の読み聞かせの後、幼少時の空間にまつわる記憶を辿る 乳幼児の生活習慣の習得、こころとからだの発達を支える空間の役割について知る（宝物をしまう服のポケット、テリトリーの形成、適度な複雑さと安全性を兼ね備えた空間の確保） 		<ul style="list-style-type: none"> 狭くて暗い場所が好き（こたつ・押し入れ・クローゼット、たんすの中机・椅子・テーブルの下ソファの裏のすきま。ダンボール、積み木で区切って中で遊ぶ） 一人でトイレに行くのが怖くて必ず母と一緒にだった 幼い従姉妹のポケットの中にほんとにその子の宝物が入っていて教わった通りで驚いた。
<p>教室</p> <p>2 時間</p>	<p>～法規制と安全～</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅内部の法規制を知る <p>絵本「くうねるところにすむところ・家づくりのきまりと工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全性確保の視点を家庭内事故の事例から学び、住まいに潜む危険に気づくめを養う <p>「建築技術 2007」「生活安全ジャーナル」「くらしと危険」</p>		<ul style="list-style-type: none"> 校内にある階段の蹴上げ踏み面寸法がそれぞれ違っていた事に気づいていなかった 家の2階トイレ間取りが階段のすぐ隣で危険とは知らなかった 日常を細かく分けて一つ一つ見つめることによって沢山の問題点（危険）ができて驚いた
<p>ホール</p> <p>中止</p>	<p>●体験学習</p> <p>～乳幼児親子とのふれあい体験～</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌市北区子育て支援センターへ依頼 新型インフルエンザ流行の為中止 <p>これ以降希望日を選び何れかに参加</p>		<ul style="list-style-type: none"> ダンボールハウス準備 <準備した質問> 子どもが生まれてから感じた家の中の危険は 子どもにはどんな空間が必要か・危険を避けるのためのしつけは何か
<p>幼稚園</p> <p>1 補講</p>	<p>～子どもサイズの空間と自立を促す工夫を知ろう～</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児が帰宅した時間に園舎を見学及び取材（4名参加） 		<ul style="list-style-type: none"> 色々な発見驚きがあった。 3～5歳児それぞれに合わせた下駄箱、トイレ、階段など快適にすごせ、設計者の目が行き届いていると感じた。

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
ホール 2 補講	<p>～組み立て・工作～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10cm 方眼用紙製作 ・避難所用ベッド組み立て ・ダンボールハウス組み立て 		<p>17名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校祭の準備をしているようだった ・補講でなく授業でできる内容では
高齢者 賃貸マンション 2 補講	<p>～高齢者賃貸マンション・デイサービス施設見学～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長さんに案内して頂く ・2日間に分けて実施 	 	<p>6名参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢期には思った以上に出来ない事があるが、工夫もたくさんあった
廊下・階段 トイレ・ホール 1 時間	<p>○ユニバーサルデザイン ～平面と立体を繋げる感覚をつかむ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ持ち回りで行う a) 車椅子体験 b) おうちパズル(北総研教材)を活用し動線を考えた間取りを考える c) 木片で立体に組み立てる ・略平面図の描き方練習 	     	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての人が暮らしやすくするには不自由を知ること大切なんだと思った。 ・車いすを体験し考えさせられた ・木片で部屋の配置を考えるのが思った以上に難しかった
教室 2 時間	<p>～排泄の自立を促すトイレの設計～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DVD「自宅介護の基礎基本」を視聴し設計のポイントをつかむ ・トイレでの一連の動作を書き出す ・グループごとに10cm方眼紙を使い動作寸法とトイレの広さを実際に確かめる ・ユニバーサルデザインの視点からトイレのデザインを考える ・グループごとに発表、各自のレポートの参考にする 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護する側の不便さまで考えたことがなかった。 ・10cm方眼紙の前で動いてみてどの位置に何があると便利か人のよって違って難しいものだった。 ・サイズを出し理想のトイレがつかれなかった事が残念だった。身近にその世代の人がいなくて想像しにくかった。 ・設計でなく実際にスーパーの新しいトイレを見た方ははいし分かりやすいと思う。
教室 2 時間	<p>～課題作成「トイレをデザイン」する」2枚提出～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレを取り上げた理由を書く ・自立を促す点を考えて簡単な図、説明文にする ・トイレに求められる他の機能をあげる 		

生徒の作品



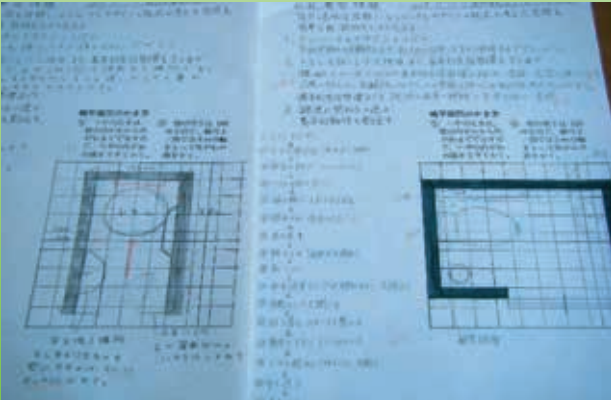
10 cm方眼用紙・避難所用ベッド・子ども椅子



カプラを使用間取り組み立て



お礼のカード



自立を促すトイレの設計

先生の声

実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 見学先で、使い勝手・快適性は僅かな寸法差に現れていたもので継続して体感しないと本来的にわかりにくいものだった。多人数を前にしての説明では聞き逃されてしまう恐れがあり、事前にポイントを把握する必要がある。
- 設計のいろはを限られた時間ではあるが系統立てて習得すると生徒に達成感がでるのではないかと思われる。略平面図を描くのに思いのほか難儀し、色彩の活用にまで十分に意識を向けられなかった。

生徒の反応

- 絵本では幼児にも「人と住まい」について分かりやすく知らせようとしている。深く難しい問いであるがそれだけ大事なのだとはわかる。
- 設計には共に生活する人への思いやりが必要。人と空間の関わりを知り整えることは家族の絆を生む大切なことだと思う。
- 人と空間の密な関係性を知ることができた。本物を見て触れて体感することが大事。
- トイレも考え方一つで快適にも不自由にもなる。多くの可能性があると感じた。高齢者向けのトイレについてもっと学びたい。
- 幼児の自立のためにもトイレを考える必要があると知った。
- 校内の皆が興味ある場所を対象にするともう少し具体的に空間認識できたのではないだろうか。
- 避難所用段ボールベッドは丁度トイレと同じくらいの広さで何日も生活するのは大変なことだと思った。

教師の変化

- 「人と住まい」の学習は生徒の関心が予想以上に高く、自ら考えだす場面が多々あった。次年度は建築士の方と連携し住文化を受け継ぎ育てていきたいプロの方の思いを直接女子高生に是非語り伝えて頂けたらという思いを抱くようになった。
- 住宅に関してCM 広告の影響からか、外観や新しい設備に目を奪われがちになるが教育では住まう人の行動をよく分析したうえで健康、快適な住空間になるよう練り上げていく過程が重要になる。そのため教室で手軽に使える教材がやはり必要になると再認識した。